

熊本地震から10年、『防災先進県くまもと』の確立に向けて ～熊本地震の経験・教訓を生かした防災・減災の取組み～

熊本県知事公室危機管理防災局防災推進課

1. 熊本地震の概要

熊本地震は、平成28年4月14日午後9時26分にいわゆる「前震」が発生し、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、上益城郡益城町で最大震度7を観測しました。

その後、平成28年4月16日午前1時25分に「本震」が発生し、同じく熊本地方を震源とするマグニチュード7.3、上益城郡益城町、阿蘇郡西原村で最大震度7を観測しました。

死者275名（直接死50名、災害関連死225名）、重軽傷者2,739名、住家被害は約20万件にのぼりました（いずれも熊本県内の被害、令和7年4月11日時点）。

国道57号やJR豊肥本線の寸断、国道325号阿蘇大橋の落橋など、地域を分断する甚大な被害が発生、県民の宝である熊本城も大きく傷つき、被害総額が約3.8兆円（熊本県内の被害総額）にのぼるなど、本県に未曾有の被害をもたらしました。

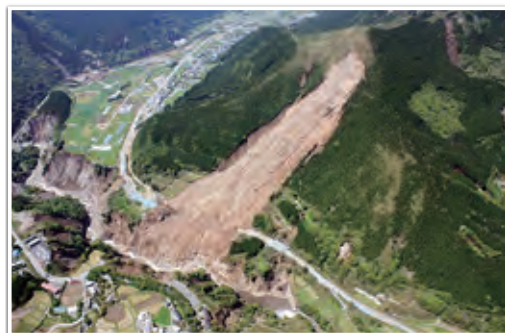
熊本地震の最大の特徴は、観測史上初めて同一地域において震度7の地震がわずか28時間の間に2度発生したことです。また、余震が頻発化したことも特徴であり、最大震度1以上の地震回数（大分県での観測も含む）は4,400回を超え（平成30年4

月30日時点）、避難期間の長期化や車中避難を含む屋外避難の増加等を招きました。

今年で、熊本地震から10年を迎えました。本稿では、熊本地震からの「創造的復興」の取組みや、熊本地震の教訓や経験を活かした防災・減災の取組み、また全国の災害対応力の向上に資する取組みについてご紹介します。



倒壊した建物（熊本県益城町）



阿蘇地域の大規模な斜面崩壊

2. 「創造的復興」の取組み

熊本県では、発災から約3カ月後には、復旧・復興の道標となる「復旧・復興プラン」を策定しました。このプランは、1. 被災者の痛みの最小化、2. 単に元あった姿に戻すのではなく、創造的な復興を目指す、3. 復旧・復興を熊本の更なる発展に繋げるという「復旧・復興の3原則」に基づき、取組みを進めるものです。

また、プランのうち特に県民生活に深く関わる10項目について、「重点10項目」として進捗管理を行い、復旧・復興全体の加速を図ってきました。

これまで、県民一丸となって創造的復興に全力で取り組んできた結果、重点10項目の多くは既に完了、または完了の見通しが立っています。

県政の最重要課題として取り組んできた「すまい」の再建については、ピーク時に2万255世帯4万7,800人が入居されていた応急仮設住宅は令和5年3月に供与を終了しましたが、応急仮設住宅と同様の住環境を提供する独自支援を行うなど、今後も最後のお一人が「すまい」の再建を果たされるまで寄り添った支援を継続していきます。

県民生活と地域経済を支える、道路・橋りょう・公共施設などのインフラの再生については、国の御支援のもと、異例のスピードで、新阿蘇大橋や、国道57号北側復旧ルートなどの開通が実現し、阿蘇地域へのアクセスは飛躍的に向上しました。

さらに、甚大な被害を受けた益城町の「復興まちづくり」の核として進めてきた

県道熊本高森線の4車線化事業は、令和8年3月に計画区間全線で供用を開始しました。

そのほか、本県出身の漫画家・尾田栄一郎氏が描く漫画『ONE PIECE』と県が連携した「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」に取組み、熊本県庁プロムナードのルフィ像をはじめ、県内9市町村に麦わらの一味の銅像を設置するなど、熊本地震からの創造的復興を後押ししてきました。



県道熊本高森線4車線化開通式

3. 防災・減災の取組み：公助の取組み

熊本地震を始め過去の災害で甚大な被害を受けた熊本県だからこそその公助の取組みを2つご紹介します。

一つ目は、いつ起こるかわからない地震等の災害に備えた訓練の実施です。その一例として、熊本県では県主導による全45市町村との訓練を実施しています。毎年発生リスクがある豪雨に備え、本県では、県と各市町村の合同訓練を年間全7回に分けて実施しており、各市町村は必ず1回は訓練に参加いただくこととしています。人命救助に関わる初動対応や避難発令・体制構

築など、公助に欠かせないこの訓練は令和3年から実施しており、県全体の災害対応力の底上げにつながっています。

二つ目は、研究機関や民間企業との連携です。その一例として、JAXA（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）と連携した被害想定の一環を進めています。熊本地震の被害データをJAXAのプログラムに学習させ、人工衛星で撮影した写真から、撮影2時間半後に建物被害を推定することを目指しています。地震対応の要は、被害の全容把握です。熊本地震のデータを有効活用する、このような取り組みを通じ、全国からいただいたご支援への「恩返し」につながればと考えております。

4. 防災・減災の取り組み：自助・共助の取り組み

最大震度7を記録した西原村では、住民同士のつながりが人命救助に繋がった集落もあったことから、災害時には住民同士の「共助」の必要性が再度認識されました。そのため、熊本県では、「公助」に磨きをかけるのはもちろん、行政と住民が連携した「自助」や「共助」の強化にも積極的に取り組んでいます。

「自助」については、日頃の備えや災害時の注意点などを記載した「防災ハンドブック」の配布や、出前授業等での「くまもとマイタイムライン」の普及・啓発等を行っています。また、今年は、熊本地震10年を契機とした学校でのマイタイムラインのモデル授業を実施するほか、事前の備えを啓発するためのショート動画やSNS広告を活用した情報発信にも取り組むことと

しています。

「共助」については、その要となる自主防災組織に対して、熊本地震後に任用している「自主防災組織活動支援員」を派遣し、地域ごとの災害リスク等に合わせた助言や講演等を行っています。

また、令和8年度から地域の防災リーダー向けの研修や防災リーダー同士のネットワーク化を図るための新たな取り組みを実施することとしています。

5. 九州を支える広域防災拠点構想

さらに、本県は、九州を支える広域防災拠点構想を掲げ、南海トラフ地震などが発生した際には、大きな被害が想定される宮崎県、大分県などへの支援を行うことができるよう、広域応援訓練の実施や拠点機能の強化など、ソフト・ハードの両面で取り組みを進めているところです。

その結果、南海トラフ地震発生時の九州地域における政府現地対策本部の設置場所や、調整役を担う九州地方知事会の会長代行県、国のプッシュ型支援物資の分散備蓄拠点に選定されました。

これらの取り組みを通じて、本県の災害対応力の向上はもちろんのこと、九州広域防災拠点としての機能強化、さらには国からも期待されている全国の災害対応力の強化につなげていきたいと考えています。

6. 地震の経験と教訓の継承・発信

加えて本県は、熊本地震から学んだ経験や多くの貴重な教訓を広く国内外に伝え、今後の防災・減災対策に活かしていく責務があります。ここでは、そのための取り組み

を3つご紹介します。

一つ目は、令和5年5月に災害対応拠点として整備した「熊本県防災センター」の1階に設けた「展示・学習室」です。本県の過去の災害の経験や教訓、防災の取組などを学習できるよう、室内には、展示パネルやプロジェクションマッピング、VRなどを整備しています。県内外の自主防災組織や自治会関係者、行政機関の視察や研修をはじめ、小中学校の社会科見学等、多くの方々にご活用いただいています。

二つ目は、熊本地震の翌年から開設した「熊本災害デジタルアーカイブ」です。このWEBサイトでは、熊本地震の災害対策本部の会議資料や議事録、熊本城・阿蘇大橋等の被災前後の写真や映像等を掲載するとともに、令和2年7月豪雨、令和7年8月豪雨に関する情報も掲載しています。令和7年度末時点で掲載資料は約21万点、収集資料は累計約41万点に達します。これらの資料は企画展や書籍、国・自治体の教材、雑誌掲載など幅広く活用されています。

三つ目は、令和5年7月に南阿蘇村にオープンした「熊本地震震災ミュージアム KIOKU」です。この施設は、熊本地震で大きく被災した旧東海大学阿蘇キャンパス敷地内に、熊本地震の記憶や経験、教訓を学び、風化させることなく確実に後世へ伝承するための体験・展示施設として整備しました。

地震発生時に土砂で潰された自動車や、崩落した阿蘇大橋の看板標識などの震災遺物を展示しているほか、発災当時を振り返るシアターや各種プログラムを通じて、熊

本地震の被災状況、地震発生のメカニズム、そして防災について学ぶことができます。熊本地震からの創造的復興のシンボルの一つであり、県内外から多くの方が訪れています。

以上3つの取組みに加え、今年は、4月に県と県内全市町村との共催で「熊本地震10年犠牲者合同追悼式」を実施するとともに、10月には「自治体災害対策全国会議」を本県で開催します。そのほか、熊本地震10年を契機とし、様々な機会を通じて熊本地震から得た知見を積極的に全国へ展開、発信していきたいと考えています。



熊本地震10年犠牲者合同追悼式

7. おわりに：『防災先進県くまもと』の確立に向けて

本県では、熊本地震の発生から10年という節目にあたり、これまでの歩みをしっかりと振り返り、防災・減災への備えなど、得られた教訓を再認識するとともに次世代に継承し、世界に誇れる『防災先進県くまもと』の確立を進めて参ります。

熊本県の歩みが、全国の防災力向上の一助となることを願い、今後も取組みを続けて参ります。